KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY
35 Kitahiyoshi-cho, Imakumano, Higashiyama-ku, Kyoto 605-8501 Japan

March 23, 2017

Prof. Ruyu Hung
Head of the Department of Education,
National Chiayi University,

INVITATION LETTER

Dear Prof. Hung,

I am writing this letter of invitation on behalf of the Forum for International Education Studies, Japan.

We are planning to hold an International Forum of Educational Studies at the Graduate School of Human Sciences, Osaka University on the 17th and 18th of June, 2017. It also includes a panel discussion on the international exchange and cooperation among universities besides individual research presentations.

I am very pleased to invite you, Prof. Meiying Chen and Dr. Lin Ming Kho (林明煌), Department of Education, National Chiayi University to attend the Forum and to present papers. The number of presenters will be ten including all of you.

This Forum was established in 2004 and we have 2-3 regular meetings per year. These meetings are usually held in Kyoto or Osaka. The topics we cover are mainly about international education and development or international cooperation in education including language education, philosophy of education and sociology of education.

This is our first time to receive academic staff from Taiwanese universities. We are honored to have your presence in the Forum.

I look forward to seeing you in coming June.

Sincerely,

Y. Murata

Dr. Yokuo Murata
President, the Forum for International Education Studies, Japan
Professor Emeritus, the University of Tsukuba, Japan

2017 年度
国際教育研究フォーラム 夏季例会
発表要旨集録

International Education Research Forum
2017 Summer session

2017 年 6 月 17 日(土) - 18 日(日)

大阪大学（吹田キャンパス）人間科学研究科

台湾の小学校における国際教育の現状と課題

―嘉義市を例にして―

林明煌
(国立嘉義大学)

21 世紀は、グローバル時代である。グローバル時代において学校教育は、科学技術の暴発的な進歩や社会の急速な変化に対応して地球村という概念をカリキュラム開発と授業設計に取り入れることがよくあった。2012 年度から移民者、外国労働者や新住民の数が増えつつあるに連れ、台湾の教育部が五年間の「全国国際教育推進計画」を打ち上げた。こうした計画に対応して嘉義市は、特色のある国際教育カリキュラムを数多く開発し、地域に根ざした国際教育推進モデルを形成した。本研究は、文献分析法により、台湾の初等・中等教育段階における国際教育のビジョン、目標と推進方策を明らかにした上で、嘉義市小中学校の校長を対象にした面接調査を通して、嘉義市における小中学校の国際教育の実施状況と課題を明らかにすることを目的とする。

一、過去における国際教育の特色と課題

2012年の以前、各学校が実施した国際教育の特色をまとめると、以下の特色が分かった。まず、学校側が国際教育の素材をカリキュラムや授業活動に取り入れ、外国語講座を提供することがよく見られた。そして、教師が自ら教科書内容、学習パンフレットやワーク・シートを選択・編成し、卒業旅行、海外旅行、ホームステイ、姉妹校交流、国際ボランティア活動、海外学校の訪問やインタネットによる国際交流などを学生に体験させた。すなわち、①国際化のキャンパス作り、②施設の整備、③行政事務の対応、④国際教育推進委員会の設立、⑤パートナー・シップの形成及び⑥カリキュラム開発などが焦点化された。

しかし、国際教育の推進に重要な役割を果たす教師の専門職性が不十分であるため、どのように国際教育の推進を学校カリキュラム開発に取り入れるかについて教師は分からなかった。また、国際教育交流・推進に必要なリソースだけではなく、中央と各地方からの行政や資金などの支援も不足である。さらに、中央と各地方における国際教育の推進組織や枠組が不明確であるため、国際教育交流・推進に必要な予算作り、教員養成や評価システムの欠如は、深刻な課題として残っていた。

二、現在の国際教育のビジョン、目標と推進方策

台湾の教育部は、前述した国際教育の課題を考慮に入れ、2012年に『小中学校国際教育白書』を打ち上げた。それによると、グローバル時代に求められる人材育成の責任は、本来大学に課されているが、台湾の国際的競争力の向上を加速するため、大学に加えて小中学校においても、2012 年から国際教育の推進とその人材育成の責任を負うべきことが示されている。また、「21 世紀国際化人材の育成と基盤」というビジョンの下で、「ナショナル・アイデンティティ」、「国際的リテラシー」、「グローバルな競争力」と「グローバルな責任感」という4つの側面から、小中学校の国際教育の4大目標と5大方略が提起されている。

まず、①「自己文化への認識から出発し、それによって本土化のアイデンティティとナショナル・アイデンティティを育成しなければならない」ため、各学校は、他国の文化と対照・比較する過程の中で、台湾文化、社会や歴史を再認識させ、国際化社会における台湾という国の厳しい状況を明確に把握させなければならない。それらの教育活動を通じて生徒のナショナル・アイデンティティを喚起・強化し、また国に対する個人の責任を重視するという方略が掲げられる。そして、②「段階的漸進的に，外国語、多文化及びグローバルな課題の学びから、ナショナル・アイデンティティのある国際観を育てる」ため、各学校は、方言教育、外国語教育、世界各国の文化及びグローバルな課題をカリキュラム内容に取り入れ、多様な学習活動を通して「国際的リテラシー」を身につけさせる方略が挙げられる。

また、③「海外の国際交流活動を提供し、それによって他文化への観察力と反省力を刺激・育成する」ため、各学校は、国際交流活動や国際体験活動に必要外国語能力、専門的知識と技能を向上させる一方、教師は、生徒の多様な国際体験活動への参加を励まし、それらを通じて国際間の競争と協力との関係を体験・理解させ、その「グローバルな競争力」の向上を図る。更に、④「生徒の他民族、他地域と異文化への尊重と受容を強め、グローバルな責任と道徳を重視する」ため、国際教育活動の体験を通して人権と持続可能性との概念を理解させ、国内外の他民族文化を認識・尊重させるとともに、生徒に世界平和の価値を認識させ、地球の環境と生態との相互依存性を重要視させることが図られる。また、日常生活で、生命共同体の概念を身につけさせ、地球村への責任感を強く持たせることも重要視される。

つまり、各学校は、主方略（内容の深化とスコープの拡大）と副方略（体制づくり、リソースの統合と推進効果の管理・評価）を取り、国際教育の目標達成を図ることが期待されている。

三、嘉義市の小中学校における国際教育の現状と課題

こうした 4 大目標を達成するため、嘉義市は、一体どのような方略を用いるか、どのような課題を残すか。以上の課題を明らかにするため、2012 年度から 2014 年度にかけて，教育部の国際教育推進補助金を受けた嘉義市の公立学校の校長先生 9 名を対象にして半構造化した面接を行った。結果として以下のことが明らかになった。

1. 国際教育推進の主な意思決定者が校長先生、教務主任や校内国際教育推進チームである。まず、国際教育推進のリーダーとしての教務主任は、校長先生のリーダーシップに従って、国際教育専門家証明書を取得した教師からなる国際教育推進チームを結成する。そして、教務主任を中心にする国際教育推進チームは、国際教育の計画・実施・評価における意思決定権を握る。
2. 推進方策として、四段階からなるトップ・ダウン式が整理される。それは、①教員専門職性の向上、②特色のある学校カリキュラムの開発、③国際教育の実施と評価、④国際教育推進補助金の申請という手続きである。
3. 生徒の国際交流・推進に必要な外国語能力を高めるため、様々な外国語講座を提供することにより、多文化理解や国際理解が促進でき、台湾人としてのアイデンティティとグローバルな責任感が以前より高まった。
4. 国際教育の計画・実施・評価に必要な教員専門職性を向上し、国際教育のカリキュラム内容における縦断的関連性を補強し、また国際教育推進補助金の申請手続きを簡単化にすることが今後解決すべき課題になる。

2017年度「国際教育研究フォーラム」夏季例会

日時：2017年6月17日（土）10:00 ～ 18日（日）13:00
場所：大阪大学人間科学研究科本館3階　第32講義室

【6月16日（金）】オプショナル
18:30-20:00：　レセプション（阪大病院14階「スカイレストラン」）

【6月17日（土）】
10:00-10:20：　開会挨拶、自己紹介ほか
10:20-11:00：　「孔子学院のボランティア派遣制度が中国人大学生に与える影響
　—ケニアで活動する中国語教師のキャリアパス—」
　李霽（大阪大学人間科学研究科院生）
11:00-11:40：　テキストマイニング手法による新聞記事の比較研究
　孫成志（大連理工大学）
11:40-12:20：　"Educational Policy for New Immigrants in Taiwan"
　Meiying Chen（陳美瑩）National Chiayi University（国立嘉義大学）

13:10-13:50：　"Towards Ecopedagogy: An Education Embracing Ecophilia"
　Ruyu Hung（洪如玉）National Chiayi University（国立嘉義大学）
13:50-14:30：　「言語生態学に基づく日本語教育の実践の試み」
　穆紅（大連理工大学）
14:30-15:10：　「「日本」・「日本語」のメディエーターとしての
　非母語話者日本語教師の役割」
　赤桐敦（龍谷大学非常勤講師）

15:30-17:00：　パネルディスカッション
　「東アジアにおける大学の国際交流・協力の課題」
　パネリスト：由志慎・林明煌・村田翼夫

17:30-19:30：　懇親会

【6月18日（日）】
10:00-10:40：　「モンゴルにおける大学の管理運営について
　—理事会の政策改革に着目して—」
　Jargalmaa Jargalsaikhan（京都大学教育学研究科院生）
10:40-11:20：　「日本と中国における大学入学者選抜制度に関する比較考察
　—変遷と現状を中心として—」
　王錚（芦屋大学教育学研究科院生）
11:20-12:00：　台湾の小学校における国際教育の現状と課題
　林明煌（国立嘉義大学）
12:00-12:40：　「反転授業による初級日本語教育の実践研究」
　由志慎（大連理工大学）
12:40-13:00：　閉会挨拶ほか